

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	21H04984	研究期間	令和3(2021)年度 ～令和7(2025)年度
研究課題名	シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷－農耕都市空間と遊牧民世界の共存－	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	山内 和也 (帝京大学・付置研究所・教授)

【令和5(2023)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、ソグド人遺跡であるスイヤブ、隣接する唐の碎葉鎮城、それを囲む遊牧民地域を総合的に調査しようとする野心的な計画である。2011年以來行われている発掘調査の延長であると同時に、考古学、美術学、生物考古学、考古医学、文化財化学、宗教史などの分野から多数の研究者が参加する。得られた知見はGIS(Geographical Information System)を用いて体系化し、国際的利用に付す計画である。</p>	
<p>(意見等)</p> <p>本研究の核心をなす学術的な「問い」である「アク・ベシム遺跡とそれを含むチュー川流域地域の歴史や文化、人の営みや物質文化を総合的に解明する」という問い及びそれに基づく5つの研究目的に対して、中間評価時点での研究進捗状況を照らすと、新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査が大きく制限されていたため、発掘調査とその出土遺物分析に依存するものに遅れが認められる。一方、その状況下で、対象遺跡のシルクロード交易を考察する上での遺跡の発見や、可能な範囲での分析調査を確実に進めてきた実績と研究成果は評価できる。残された研究期間における実施計画を効率化して見直すことにより、新型コロナウイルス感染症による遅れを取り戻し、当初の研究目的が達成されることが見込まれる。</p>	